

## 合理的配慮の提供事例報告書【小学校】

### 事例の概要

A児は肢体不自由学級在籍で、生活は全介助である。運動後や寝不足で疲れている時や起床後などに、てんかん発作が見られる。  
 病院、放課後デイサービス、社会福祉協議会等を利用し、体調管理やリハビリの相談も行っている。  
 教室は、駐車場からスロープで入りやすい位置にある。また気温によって体温が変化したり、湿疹が出たりするため、教室には冷暖房・水道を設置し、体温調節ができるようにしている。  
 発作後は寝てしまうことも多く、マット・布団を常設し必要に応じて休憩や睡眠をとらせている。  
 発作時の救急体制を学校、学童保育、医療機関で話し合い研修を行う等共通理解している。  
 また、緊急の際すぐに連絡が取れるよう、教室内には外線につながる電話を設置している。  
 給食は、誤嚥防止のためにミキサーで流動状にして食べさせる。汁物・飲み物には、とろみをつける等飲み込みやすくしている。

- |            |            |                        |
|------------|------------|------------------------|
| 1 対象児童の障害種 | 肢体不自由      | 知的障害                   |
| 2 障害の程度    | 該当(肢体不自由)  | ※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か |
| 3 在籍状況     | 小学校・特別支援学級 |                        |
| 4 学年       | 小4         |                        |

### 5 対象児童の実態

A児は焦点性てんかん、脳性まひ、重度知的障害があり、意思表出が難しく、発語はあるが意味のある言語は話すことができない。また、立位での姿勢保持が難しく、自力で歩くことは困難である。  
 入学時は車いすに乗っていたが、教室移動時は保護者から預かっている、座位保持装置やバギーを使って移動している。また自立活動の時間を使って、歩行器での歩行訓練も行っている。  
 学年の学習は難しいが、音楽には興味があり、体を動かしたりピアノを鳴らしたりして笑顔を見せることも多い。  
 交流学級では学活や音楽、図工の授業に参加しているが、友だちとのかかわりの中で表情が豊かになり、発語や笑顔が多く見られる。  
 保護者の意向もあり、将来的にはB病院の院内学級に転校する予定である。

### 6 対象児童についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

- 1 保護者からの申し出
- 2 ウエスト症候群による運動機能低下、點頭てんかんにより、全介助が必要である。
- 3 B病院への付き添い、教育委員会・学童保育の職員・教員によるケース会議、放課後デイサービスとの懇談によるリハビリ内容の共通理解、緊急時の救急体制確立のための研修等を行っている。
- 4 発作時の酸素吸入等、緊急時に備えた研修を行い、組織で対応ができるようにする。担任と外部機関、保護者との連携を密にし、A児に必要な支援を共通理解する。

## 7 基礎的環境整備の視点と概要

### 基礎⑤ 施設・設備の整備

C町では各学校の特別支援学級に対して、施設・設備費を予算化し、基礎的な環境を整えることができるようにしている。

教室には緊急時に医療機関に連絡を取るのに必要な電話、体調・体温調節に必要な冷暖房や水道が設置されている。

### 基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置

給食時、介助員に入ってもらい、食事の粉碎や介助、A児の歯磨き等を交互に行っている。

## 8 合理的配慮の観点と概要

### 合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

教室の気温や湿度に注意し、体温調節を助ける。

必要に応じて休息や睡眠をとらせる。

移動・排泄・食事・生活すべての介助が必要である。

発作時の救急体制を校内と医療機関で話し合って確立している。

また各機関との懇談の中で、食事の内容や介助方法、A児の身体の様子等を共通理解している。

発作時の酸素吸入の研修を、教職員・学童職員で行い、すべての教職員が対応できるようにしている。

### 合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

A児は、低緊張のため坐位は頸部・体幹の支持が難しく不安定である。

また、立位も膝関節が突っ張った状態で体幹・骨盤の支持性が低く、一方へ傾いてしまい不安定である。そのため保護者からの申し出も受けて、校内の移動は座位保持装置を使用している。

自立活動の時間には歩行器を使ったり、後方から介助をしたりしながら校内や運動場の歩行を行い、少しでも安定した姿勢で歩行ができるように支援している。

## 9 成果と課題

### <成果>

担任が全校児童にA児を紹介することにより、たくさんの児童が笑顔で温かく受容する雰囲気ができた。

自立活動で立つ、座る、歩くの練習をした結果、支え歩きで25歩進むことができた。

主治医の病院がD市にあり、緊急搬送に時間がかかるため、近隣の医療機関に連携を依頼し、緊急の対応が可能になった。

### <課題>

成長に伴い、身長や体重が増加し、担任一人で支えたり介助をしたりすることに安全上の心配がある。

睡眠が不規則で、朝が起きにくいいため登校が9時、10時になる日が多い。

校外学習や学校行事の参加等、本人の体調が変化しやすいため配慮が必要である。